

令和2年7月3日

寮生・保護者各位

対面による授業の一部再開に伴う奈良高専学寮の対応について (FAQ)

寮務主事

先日、7月6日より始まる一部対面授業開始後も閉寮継続を通知いたしました。その後、いただきましたご質問につきまして、FAQの形でご説明させていただきます。

[前提]

学寮における生活は、政府の専門家会議が可能な限り避けてほしい条件として提唱している3つの条件（人の密集、換気の悪い密閉空間、近い距離での会話環境）のいずれにも該当してしまいます。従いまして、このような条件の中においても感染者を出さない、広げないために可能な限りの配慮を行って寮運営を行って参ります。このためには全寮生ならびに保護者の皆様の理解と協力が不可欠です。

現在、開寮のための準備を進めており、開寮前には新しい寮の生活スタイルについての全寮生ならびに保護者への説明をいたします。

Q1. なぜ一部対面授業が開始されるのに閉寮を継続するのですか？

A1. 以下の複数の要因を総合的に判断して閉寮継続を決めました。

● 新型コロナウイルス感染症対策の学寮環境構築に時間を要すること

学寮における生活は、3つの条件（人の密集、換気の悪い密閉空間、近い距離での会話環境）のいずれにも該当しています。このような条件の中においても感染者を出さないため、洗面所水栓の交換、アルコール消毒液等衛生用品の確保、食堂の密接防止対策、病人のための休養室の確保など、学寮で考える可能な限りの準備をしているところです。また、寮生の方へお願いする新たな寮生活のルールも作成中です。今後皆様に提示しますが、ウィルス感染をしないため、他の寮生の部屋への訪問禁止、談話室の使用制限、門限の時間変更、アルバイトの禁止、不要不急の外出自粛、食事・入浴時間の制限など、今までの寮生活よりもより規則正しく、制限のある行動をする必要があります。

ただ、どれだけ対策を施したとしても、ご家庭に比べて密接・密集は完全には避けられないと考えています。

● 寮食堂での食事提供に時間を要すること

食堂については、食事提供開始までには、メニュー作成、食材準備、人員配置の準備などに約1か月の期間を要します。また、通学不可能な寮生や対面授業のある一部の寮生のみを帰寮させた場合には喫食数がかなり少なくなるため、追加料金が発生すると食堂業者から説明を受けており

ます。

●継続される遠隔授業を受講するための環境が全員の寮生は整備できていないこと

対面授業が実施されるのは、1クラスにつき1科目（多くても2科目）であり、その他の科目はこれまで通り遠隔授業として実施されます。学校への登校は、クラスの半数ずつになっており、一人当たりとしては、登校回数は1回/週（もしくは1回/2週）となります。

その場合、登校しない時間は学寮居室での生活（遠隔授業の受講など）となりますが、寮事務室で調査したところ、寮居室の遠隔授業環境（インターネット未契約、PC未購入など）が整っていない寮生もかなりいらっしゃり、寮生全員に居室で遠隔授業を受けていただくことができないことがわかりました。

このような状況においては、学寮を全面開寮するよりすでに環境が整っているご自宅で遠隔授業を受講していただくことが望ましいと判断しました。通学中の感染不安、遠方のため日帰りができない、交通費負担が大きいなどの理由で出席できない対面授業については、補講等、学修機会が確保されます。補講等のスケジュールについては、後日、教務委員会から連絡があります。

●開寮後の新しい生活ルールについて教職員や寮生に周知できていないこと

教職員へはオンデマンド型による説明、寮生へは前もっての新ルールの送付と開寮日当日の説明を予定しています。

Q2.開寮の用途を教えてください。

A2. 開寮の時期については、遅くとも2週間前にはお知らせいたします。

Q3.5年生だけ特例として開寮を認めていただけないでしょうか？

A3. 5年生は卒業研究を除くすべての講義が遠隔授業となっています。また卒業研究も週1回程度の登校による実施となります。より安全安心であるご自宅での遠隔授業を受講していただきますようお願いいたします。